

社会・文化論専攻

人材養成および教育研究上の目的

社会・文化論専攻においては、人間社会及び人間文化の二つの研究領域を、さらに後者には文化構造論・思想文化論・表象文化論の分野を設け、社会学・文化人類学・哲学・宗教学・芸術学を基幹科目として、調査を主とした実践習得型指導方式によるカリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。学部での習熟度を踏まえ、講義、演習及び実地調査を通じた研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、もって社会諸方面の要請に応えることのできる専門職業人を育成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

社会・文化論専攻は、人文学部文化学科を母胎に、急激な社会変動の下にある現代の日本及び国際社会において柔軟に変化に対応し、今後の社会の在り方の指針策定に寄与できる専門職業人や研究者の育成を目指して、「人間社会」及び「人間文化」の両分野を基軸に設けた修士課程である。

そこで本専攻では、

1. 文化と社会の多様性の理解と、それを尊重する指向性を持つ人
2. 人間の思想・行動・社会に関する基礎的な知識を持つ人
3. 人間の思想・行動・社会に関する文献・資料・データなどを正確に読み解く力を持つ人
4. 社会的・文化的活動に積極的に関与する指向性を持つ人

であり、そうしたことを、社会学・文化人類学（民俗学を含む）・哲学・宗教学・芸術学いずれかの専門分野での研究・研鑽を通して、能力や指向性をさらに高めようという意思を持つ人を受け入れる。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間社会分野に「社会システム論」（社会学）、人間文化分野に「文化構造論」（文化人類学）、「思想文化論」（哲学・宗教学）及び「表象文化論」（芸術学）の科目群を設置している。院生は、「特講」と「演習」を担当する研究指導教員を選択し、教員の懇切な指導の下で各人の専門領域の学識を深める。

これは本専攻のカリキュラムのスペシャリスト養成の側面である。それと同時に、年次に従って「社会・文化基礎論（Ⅰ～Ⅳ）」の必修科目を習得し、共通する統一的な理論





や方法論についての知識を身につけ、さらに各分野・領域の文献講読や関連領域の選択科目群を履修することで、専門教育を補強するジェネラルな視野を涵養する。ジェネラルな視点を持つスペシャリストの養成が、本教育課程の編成の中心理念であり、その基本理念に沿って時代や社会の要請に応じて必要な改変を実施していく予定である。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

社会・文化論専攻の修士課程では、所定の単位を所得し、かつ、厳正な審査に基づく修士論文の合否判定により、以下に示すような資質や能力を備えていると認められる者に対して修士(文学)の学位を授与する。

- ・ 社会と文化に関わる基礎的な理論や方法論を身につけ、それらを自らの研究に適切な形で応用することができること。
- ・ 社会と文化の多様性について十分な関心と知識をもち、それを反映させた高度な学術的考察ができること。

